

こうのさき

神野紗希（29） 俳人

若手俳人のトップランナー。

高校時代に、放送部の取材で俳句甲子園と出会い、俳句を始めた。第四回俳句甲子園にて団体優勝・個人最優秀賞（「キャンパスの余白八月十五日」）をダブル受賞。2004年から6年間、NHK-B S「俳句王国」の司会を毎週担当。現在、俳句の作者として、また研究者として、各誌で活躍中。学校教育現場やカルチャー教室において、俳句指導にも携わっている。

「俳句スイーツ」「俳句恋みくじ」（お土産店「あるね」）、「はいくボール」（松山市）開発など、松山市の観光を俳句で盛り上げる活動にも積極的に参加。俳句甲子園OBとして、各高校への講師派遣事業や本大会での運営などにも参加。先日、俳句をはじめからこれまでの10・20代を総括する第一句集『光まみれの蜂』（2012年4月、角川出版）を上梓。



1983年6月4日、

愛媛県松山市生まれ。

松山市立生石小学校、

松山市立西中学校、

愛媛県立松山東高校卒。

お茶の水女子大学文教育学部国語・国文学科卒。

同大学院比較社会文化学国語・国文学科修士課程卒。

現在、同博士課程に在籍、近・現代俳句（愛媛出身の俳人・富澤赤黄男）を研究。

講演・ワークショップ

文化庁の講師派遣事業にて、秋田県にかほ市、東京都海城中学校などで小学生～中学生対象の俳句ワークショップ講師。また、松山市俳句甲子園講師派遣事業にて青森県弘前市、岩手県大槌町などで高校生に俳句を教える授業をしている。

NHK文化センター青山教室、新宿教室、国立教室、町田教室ほか、カルチャー講座講師。日テレ文化振興財団の俳句講座「言葉の寺子屋」事業にも参加。みかんの里吉田町全国俳句大会ほか、全国各地の俳句大会の選者や講演を担当。

著書

初期句集『星の地図』（2002年、まる工房）、第一句集『光まみれの蜂』（2012年4月、角川出版）。共著に『虚子に学ぶ俳句365日』（2010年、草思社）『子規に学ぶ俳句365日』（2011年、草思社）、若手作家アンソロジー『新撰21』（邑書林）参加、100句掲載。その他、雑誌・新聞（「愛媛新聞」「朝日新聞」「読売新聞」「毎日新聞」ほか）執筆多数。